



## 木もれびの森の野鳥たち 4月

### <移動と繁殖、待ったなしの季節の中で>

この春は夏日を記録したり、真冬並の寒さに戻ったりして、気温の変化の大きな中を経過してきました。

3月に入ると日増しに日差しは明るくなり、野鳥たちは繁殖へ向けてのスイッチが入ったようです。中央広場周辺では、**モズ**が他の鳥のさえずりのような声で歌い始めました。やっぱり、名前の由来どおり”百舌”の証です。雌モズへのアピールは効果抜群でしょうか？

**ヤマガラ**は、もう2羽のペアでつかず離れず、枝から枝へ食べ物さがし。**エナガ**は高い木の込み入った中へスーと入り込み、一足早く巣作りか？巣材のコケやクモの糸や羽毛を運ぶ姿に出会えるかもしれません。**シジュウカラ**もペアが成立、と見ていると近くに別の雄が来ていて、ペア一雄はあわてて追い出しにかかりました。

ここで越冬していた冬鳥の**ツグミ・シロハラ・ジョウビタキ・アカゲラ・アオジ・ルリビタキ・キクイタダキ**たちは、3月後半から4月にかけてそれぞれの繁殖地へ向けて移動開始を始めています。この冬は、**クロジ**や**ミヤマホウジロ**も数年ぶりに立ち寄り、種数の多い年となりました。

さて、4月から5月にかけては南の国から夏鳥の便りが届く季節です。近年数を減らしている身近な夏鳥の**ツバメ**は、3月21日に飛来。子育てに適した場所がうまく見つかるといいですね。森がすっかり若葉色になる頃、**キビタキ**や**センダイムシクイ**・**オオルリ**などの立ち寄りがあり、さえずりを響かせてくれることでしょう。1年中をここで暮らす鳥にとっては、子育て真っ最中のときを迎えて、しばし親鳥の奮闘が続きます。(瀬尾)



ツバメ

## 木もれびの森の樹木(25)

今年の冬は2月頃まで厳しい寒さが続きましたが3月に入り急に暖かくなり、まるで初夏を思わせる日々が続く、サクラの開花が平年より10日ほど早まりました。中央緑地のサクラも例年より早く咲きました。

3月に入ると森の樹木は少しずつ春の装いに変わりつつあるのを実感することができます。森のコブシは高木が多く見上げるといつのまにか白い花をつけ良い香りがしました。

前号に続いて活動地Aの野鳥の通り道の低木のうち**ゴンズイ**、**シロダモ**を取上げます。

**ゴンズイ**はミツバウツギ科ゴンズイ属の小高木。関東以南の雑木林などに生えます。樹皮は黒褐色で縦長の白い筋が入ります。葉は奇数羽状で小葉の先がとがった卵形をしています。花は5~6月に黄緑色の小さな花を多数つけ、実は9~10月に成熟します。果皮は赤色で熟すと裂けて開き中から黒い丸型の種子



ゴンズイの花(左)と実(右)

が露出して見えます。

名前の由来は材がもろく役にたたないので同じく役にたたない魚のゴンズイの名がつけられたという説があります。

**シロダモ**はクスノキ科シロダモ属、常緑高木で高さ 10~15m。樹皮は緑色を帯びた暗褐色で小さな皮目がつきます。葉は枝先に車輪状に集まり、先がとがり細身の卵形で全縁。花期は 10~11 月で黄色の小さな花が咲くと同時に前年の実が丸型の赤く熟したのが見られます。



シロダモの花(左)と実 (右)

名前の由来は葉の裏がシロでダモはタブから変化したものです。(林)

### 木もれびの森の毒草

昨年は木もれびの森で植生調査中、シロバナハンショウヅル・イチヤクソウ・リンドウを見つけました。大切に保護したいと思います。ところが盗掘も絶えません。群生していた「ウラシマソウ」がすべて盗掘されたと聞きました。全くひどい話で悲しいことです。

「ギンラン」「ササバギンラン」は、小さくて目立たない植物です。盗掘されることが多いので、されないように保護したいです。「キンラン」は、僅かずつですが増えているように感じられます。盗る人は次の世代にこの美しい自然を残してあげたいと思わないのでしょうか？・・・残念です。

今年度はこもれびの森にある毒草について掲載します。

毒草と薬草は紙一重と言われますが、植物を食べると「激しい動悸を招く」植物がある、その効果を利用すれば強心剤としての薬効が期待できます。幻覚を招く植物ならば麻酔薬や痛み止めとして効果が得られるといわれています。そんな植物の効力を利用して薬が出来たのではないのでしょうか。アマゾンのジャングル地域に行きますとまだまだ分からない薬草がたくさんあるそうです。こもれびの森にもたくさんの毒草があると思います。山菜と間違わないように注意しましょう。

植物自体は敵から身を守ることが出来ません。そこで棘や毒で武装して自身を守るのではないのでしょうか。(田崎)



**ウラシマソウ** サトイモ科 雌雄異株 多年草 花期3~5月 花は暗紫色で葉より下の位置につけます。 **毒部・全草 成分ーサポニン**  
奇妙な形をした筒は仏炎苞とよぶ、筒の中には小さな花がついた軸がある。ウラシマソウではこの花軸の先が 40~50 cm に長く伸び垂れ下がる、それを釣り糸に見立てて浦島太郎を連想した所からの名前です。  
見るからに気味の悪い姿をして・果実も赤く毒々しく不気味な植物ですが愛好家がいるのですね。こもれびの森では貴重な植物です盗掘され残念で悲しすぎます。  
サトイモ科の植物で球茎・新芽・果実を食べると嘔吐・腹痛・皮膚炎などにおそわれるので絶対に食べないでください。  
ウラシマソウは栄養状態で性が転換するとい奇妙な植物です。